

武石地域自治センター

平成28年度 重点目標

- 1 武石地域住民自治組織の設立
- 2 地域コミュニティ拠点施設の検討と安全安心な地域づくり
- 3 地域資源を生かした産業施策の推進
- 4 武石地域全域公園化構想による地域づくり

重点目標	武石地域住民自治組織の設立			部局名	武石地域自治センター	優先順位	1位
総合計画における位置付け	第1編 市民が主役のまちづくり 第1章 自治の推進による活力ある自立した地域社会の実現 第2節 地域内分権による地域の自治の推進	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	4	ひと・地域の輝き戦略 地域主体のまちづくりを進める地域内分権推進	2014市長マニフェスト における位置付け	- 2 - - 1 -	
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(3) 市民満足度を向上させる人・組織の改革 カ 地域内分権による地域の自治の推進						
現況・課題	自治会連合会、地域協議会による地域内分権についての先進地視察や地域協議会専門部会による研究を重ね、武石地域住民自治組織設立を目的とした、「武石地域住民自治組織準備会」が平成28年3月18日に設立されました。地域内分権の必要性について、共通認識や理解が広がりつつあるが、その捉え方は、団体や個人よりさまざまです。住民自治組織設立にあたり、市民の参加と協働によるまちづくりをさらに推進するため、住民や各種団体との意見交換や学習会の機会を多く設け、新たな住民自治組織に関する理解を広げながらその効果を共有し、地域内分権を充実、進化させていく必要があります。						
目的・効果	自治基本条例の基本理念を踏まえ、地域住民自らが参加・参画し、地域内の課題を解決できる住民自治組織を設立し、地域住民と行政の協働による地域自治を推進し、地域が健康で元気なまちを創り上げることにより「健（康）幸（福）都市」の実現を目指します。						
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
武石地域住民自治組織準備会の開催 (1)先進地視察、市内モデル地区取り組みの研究 (2)取り組み内容の検討 (3)まちづくり計画の検討 (4)規約の制定、予算への反映	(1) ~ 12月 (2) ~ 12月 (3) ~ 3月 (4) ~ 3月	(1)必要に応じて数回 (2)(3)(4) 6回以上の会議の中で検討 ・地域課題把握 ・地域振興施策研究・支援 ・まちづくり計画への反映	(1)7月12日、福井県越前市「しらやま振興会」を視察実施5月から毎月1回準備会を開催し、市内モデル地区の川西、神科・豊殿、丸子の各取り組みを研究中 (2)(3)(4) 5月から毎月1回準備会を開催し地域課題の把握に努め、まちづくり計画案の策定、規約、予算案の作成に向けて検討協議中	(1)7月12日、福井県越前市「しらやま振興会」を視察実施5月から3月まで11回の準備会を開催し、市内モデル地区の川西、神科・豊殿、丸子の各取り組みを研究 (2)(3)(4) 5月から毎月1回準備会を開催し地域課題の把握に努め、まちづくり計画策定方針案、規約案、事業計画案、予算案を作成し、住みよい武石をつくる会設立総会へ提案			
住民への周知活動 (1)定期的な広報誌の作成と配布 (2)各種団体との意見交換 (3)地区説明会の開催	(1)(2)(3) ~ 3月	(1)6回以上 (2)団体との調整の上実施 (3)自治会との調整の上実施	(1)準備会だよりを3回発行し地域内全戸へ配布 (2)11月に説明会を開催予定 (3)11月から説明会を開催予定	(1)準備会だよりを5回発行し地域内全戸へ配布 (2)11月8日、10日に地域で活動する43団体に説明会を開催 参加者 62人 (3)11月から1月に全18自治会を対象に11会場で住民説明会を開催 参加者 261人			
住民自治組織の設立	H29.3月設立を目標とする	(1)規約の決定 (2)まちづくり計画の決定 (3)予算への反映	(1)5月から毎月1回準備会を開催し、規約案まで作成 (2)準備会でまちづくり計画案を検討協議中 (3)準備会で規約案とまちづくり計画案を策定後、予算案を作成予定	(1)(2)(3) 3月30日、武石地域の新たな住民自治組織「住みよい武石をつくる会」設立総会を開催。規約、まちづくり計画策定方針、事業計画、予算を承認した。自治会をはじめ地域で活動する46団体の参画を得られた。総会参加者 94人			
特記事項	市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・幅広い組織からの人選により「武石地域住民自治組織準備会」が設立され、多種多様な意見を集約できる体制となった。 ・きめ細かい情報発信に心がけ、住民理解の向上に努める。		取組による効果・残された課題 ・武石地域の新たな住民自治組織「住みよい武石をつくる会」の設立により、地域内分権の確立に向け踏み出すことができた。引き続き情報発信に努めるとともに、自治組織が主体的に取り組む活動を支援していく必要がある。				

重点目標	地域コミュニティ拠点施設の検討と安全安心な地域づくり		部局名	武石地域自治センター	優先順位	2位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第3節 安全安心に暮らせる環境の整備	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	4 ひと・地域の輝き戦略 地域主体のまちづくりを進める地域内分権推進	2014市長マニフェスト における位置付け	- 2 - - 1 -	
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(2) 支える財政基盤の改革 ウ 市有財産の適正な管理と利活用					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> 武石地域自治センター庁舎は、昭和36年建築、延床面積1400.86㎡、地上2階地下1階、鉄筋コンクリート造であります。建築後54年が経過し、雨漏り、窓の開閉困難、壁面の亀裂等、維持管理上等で支障が生じるなどの老朽化が進んでいます。 武石公民館は、昭和48年に建築、延床面積2009.6㎡、鉄筋コンクリート造で、トイレなど施設全体が高齢者等への配慮に欠けている状況です。 健康センターは、昭和55年に母子健康センターとして建築されたもので、保健・医療・福祉の拠点として改築を重ねて使用していますが、自治センターと離れており、市民にとって非常に不便な状況です。 武石地域の総合支所機能に加え、公民館や健康センターの機能を兼ね備え、耐震性を有する複合施設として建て替える必要があります。 武石地域は、特に高齢化が進行していることから、災害時等の「自助・共助」について積極的な自主防災組織の育成が必要です。予てから災害時要援護者登録制度による住民支えあいマップが全自治会で完成し、自治会ごとの防災、避難体制の整備を進めてきました。 近年全国的に自然災害が頻発する中、尊い生命を守るため各種警戒発令時及び災害時の避難方法、防災の備え等について、住民への周知、啓発を行うことと、拠点となる施設整備が必要とされています。 人口減少と少子高齢化が進み、地域のコミュニティ維持が困難になる可能性があります。このため廃止されたオフトーク通信の代替えによる地域内の情報伝達システムが必要とされています。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 機能的で利便性の高い市民団体の活動拠点及び防災拠点としても地域に密着した活動拠点を確保し、住民参加によるまちづくりを推進します。 ユニバーサルデザインの導入で、より多くの市民の社会参加が可能になり、健康づくり、生きがい対策まで含めて、市民協働により開かれた地域づくりを推進します。 施設の一元化と規模の適正化により、利便性の向上と維持管理経費の縮減、行政効率の向上が期待できます。 自主防災組織リーダー研修・各自治会での防災訓練等を通して地域住民が防災についての認識を深め、その能力を高めることで、万が一の災害時にも被害を最小限に留めるとともに、互いに支え合う地域づくりを推進し、暮らしの安心につなげます。 人口減少と少子高齢化の中、地域内での情報伝達システムを構築することは、地域コミュニティの維持、発展に寄与するものとして期待されます。 					
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
総合センター整備計画の策定 (1)適正設置規模の検討 (2)センター内検討の実施 (3)実施計画への登載	(1)5月 (2)～8月 (3)8月	(1)将来的な適正職員配置規模の決定に基づいた自治センター面積規模とする (2)センター内検討委員会による整備計画検討	(1)4月20日に全体検討会を実施 (2)5月17日、5月30日、6月21日にセンター各課、本庁関係課による検討委員会を開催。整備計画案を作成し実施計画を提出	(1)(2) 中間報告で達成 (3)実施計画に搭載となり達成		
情報伝達システム整備方針の決定 (1)全世帯を対象とし意向調査の実施 (2)システムの決定 (3)設置に向けた予算の検討	(1)6月 (2)(3)年内	(1)全世帯を対象とする (2)(3) 全庁的な整備方針の合意により決定	(1)7月に全世帯を対象に意向調査を実施 (2)先進地の情報伝達システムを参考に調査研究中 (3)各種システムの導入経費等を比較研究中	(1)7月に全世帯を対象に意向調査を実施 (アンケート配布個数：1,226戸、有効回答数：970件、回答率：79.1%、無線放送システムの加入希望率71.1%) (2)地形的にアナログ無線による情報伝達システム案を策定 (3)無線情報伝達システム構築に向けた市と受益者の費用負担を検討		
自主防災組織の育成と防災訓練の実施 (1)自主防災組織リーダー研修会の実施 (2)防災訓練の実施	(1)6月 (2)9月	(1)全自治会対象 (2)全自治会対象	(1)全自治会を対象に6月30日に自主防災組織リーダー研修会を開催し、全18自治会の役員他84名が参加 (2)全自治会を対象に9月3日に武石地域防災訓練を実施 1次避難所参加者598名、情報伝達訓練の伝達率は90.6%	(1)中間報告で達成 (2)中間報告で達成		
災害時要援護者登録台帳の更新 (1)新規登録者の台帳整備 (2)既登録者の現状把握及び台帳更新 (3)災害マップの更新	(1)～(3) 12月	(1)～(3)全自治会にて作業を終了させる。	(1)(2)17自治会が台帳の整備及び台帳の更新が完了 残る1自治会は12月までに終了予定 (3)災害マップは社会福祉協議会と連携し更新作業中	(1)(2)武石地域内全18自治会において台帳の整備及び台帳の更新が完了済み (3)災害マップは社会福祉協議会と連携し更新作業が完了 29年4月に全自治会に配布をする予定。		
特記事項	市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・公共施設の集約を図り、地域コミュニティを活性化する「小さな拠点」なる総合センター計画を推進する。 ・住民から要望の強い、廃止されたオフトーク通信の代わりとなる新しい情報伝達システム整備を進め、より安全な地域づくりを進めたい。		取組による効果・残された課題 ・地域住民が満足できる規模・機能を備えた総合センター整備計画の策定を進める必要がある。 ・新たな情報伝達システムの導入に向け、運営体制の確立、加入者確保を進める必要がある。			

重点目標	地域資源を生かした産業施策の推進		部局名	武石地域自治センター	優先順位	3位
総合計画における 位置付け	第3編 誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり 第1章 次代へつなぐ農林水産業の振興 第2節 農林業の安定的な生産体制の整備と産地化の推進 第3章 魅力ある観光地づくり 第1節 おもてなしで迎える観光の振興	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	1 上田で働きたい戦略 農林業の稼ぐ力の創出 3 訪れたい・住みたいうた戦略 地域資源を生かした知名度アップと交流促進	2014市長マニフェスト における位置付け	- 1 -	
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1) 住みたい住みたいと思うまちづくりへの改革 ア 移住・定住・交流人口を増やす体制の確立 ウ 広域連携の推進					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・武石地域は、経営規模が小さい農家が多く、高齢化率が高いことから、農業従事者の高齢化や遊休荒廃地の増加が進む中、農業従事者の維持、新規就農者の創設が必要です。 ・農業基盤施設の老朽化により、計画的な維持補修が必要です。 ・平成28年度新規採択となった、県営中山間総合整備事業（美の郷地区）を推進する必要があります。 ・中山間総合整備事業を推進するため、採択要件である多面的機能支払交付金事業を実施する必要があります。 ・練馬区との友好提携により共に育んできた文化、教育、産業等の交流をさらに深めるため、交流イベントの強化が必要です。 ・観光客誘致に向け魅力ある観光地を集結し、広域的に関係自治体が連携することで、それぞれの観光資源を点ではなく面でアピールしていく必要があります。 ・自然環境や温泉施設、歴史的建造物など、武石地域特有の地域資源を活用することによって、武石地域におけるファンを増やし、観光客等の利用者増を図ることが必要ですが、観光施設等については、全般的に老朽化が進んでいることから、魅力ある観光資源として発信していくために、安全対策及び美観上、計画的な整備が必要です。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・県営中山間総合整備事業（美の郷地区）を推進するため、地元説明会の実施、推進委員会設立、計画概要書の策定等を行います。 ・中山間総合整備事業を推進するため、多面的機能支払交付金事業の新規採択に努めます。 ・練馬区との友好提携により共に育んできた文化、教育、産業等の交流をさらに深めるため、練馬区との交流イベントを積極的に行い、地元農産物のPRと販路拡大を図ります。 ・美ヶ原高原・ピーナスラインの自然をテーマとし広域的に関係自治体が連携することで、それぞれの観光資源を点ではなく面でアピールしていく必要があります。美ヶ原高原及びピーナスラインをテーマとする関係する関係自治体と連携し、事業を展開すると共に観光PRを行うことにより、効果的に観光客誘致を図ります。 ・魅力ある観光資源として発信していくため、観光施設についての整備を計画的に実施し、誘客を図ります。 					
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
中山間総合整備事業（美の郷地区）の事業化に向けた推進 (1) 地元説明会の実施 (2) 推進委員会の設立 (3) 合意形成による受益者の同意書取りまとめ (4) 計画概要書の策定	(1) 4月～5月 (2) 4月～5月 (3) 7月～8月 (4) 年度内	(1) (2) (3) (4) 関係水路2地区の自治会の事業説明と事業実施要件である多面的機能支払交付金事業の説明・推進委員の設立	(1) 4月に関係2地区で実施 (2) 4月に設立 (3) 12月を目途に取りまとめ (4) 年度内に策定予定	(1) 4月に関係2地区に対し実施 (2) 4月に設立 (3) 12月に取りまとめ (4) 12月に策定		
多面的機能支払交付金事業の推進 (1) 地域説明会の実施 (2) 地域組織立ち上げ支援 (3) 活動組織への指導と助言	(1) 年度内 (2) 年度内 (3) 年度内	(1) (2) (3) 2地区の新規採択	(1) 4月に2地区で実施 (2) 推進中 (3) 推進中	(1) 4月に2地区及び3月に1自治会で実施 (2) 2地区へ支援 (3) 活動組織の1地区へ指導・助言		
友好提携都市との交流と広域市町村との連携 (1) 練馬区との交流 ア 照姫まつりへの参加 イ 練馬まつりへの参加 (2) 美ヶ原高原広域連携 美ヶ原高原関係自治体及び関係団体との連携 ア 美ヶ原自然再生事業（ササ刈り）の開催 イ 美ヶ原高原ノルディックウォーキングの開催 (3) ピーナスライン沿線広域連携 ピーナスライン関係市町及び関係団体による協議会の運営	(1) ア 5月 イ 10月 (2) ア 春、秋 イ 9月 (3) 年度内	(1) ア 武将隊、真田太鼓隊参加による上田市PR活動、物産店出店 イ 上田市PR活動、物産店出店 (2) ア 参加者 200人以上 イ 参加者 50人以上 (3) 広域観光ビジョンの策定、ピーナスラインの映像化、HP作成、研修の実施、ピーナスラインドライブ促進事業の実施	(1) ア 5月29日に職員5人が参加 イ 10月16日の参加に向け準備中 (2) ア 5月21日に開催、90人が参加 イ 9月3日に開催、67人が参加 (3) 広域観光ビジョンの策定、ピーナスラインの映像化、HPの作成は内容等を検討中 ピーナスラインドライブ促進事業は実施中	(1) ア 5月29日に参加 職員 5人 イ 10月16日に参加 職員 6人 (2) ア 5月21日開催 90人参加 10月2日開催 93人参加 計183人 イ 9月3日開催 67人参加 (3) 広域観光ビジョン、ピーナスライン映像化、HP作成済 ピーナスラインドライブ促進事業を実施		
観光施設の計画的な整備 (1) うつくしの湯施設整備 (2) 雲溪荘施設整備 (3) 巢栗溪谷緑の遊歩道及び巢栗キャンプ場施設整備 (4) 番所ヶ原スキー場施設整備	(1) 8月 (2) 8月 (3) 9月 (4) 11月	(1) 浴室内換気扇改修 (2) トイレ洗浄便座化、竹垣設置 (3) 木道整備、木橋敷板張替工 (4) 第2リフト脱索検出装置更新	(1) 7月29日に完了 (2) トイレ洗浄便座化は11月に発注予定 竹垣設置は9月16日に完了 (3) 7月に発注済、10月完了予定 (4) 7月に発注済、11月完了予定	(1) 7月29日で完了 (2) 3月24日で完了 9月16日で完了 (3) 10月31日で完了 (4) 11月31日で完了		
特記事項	市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・練馬区との交流を武石地域から上田市との交流に発展させ、移住・定住につなげたい。 ・補助率の高い事業採択による農業施設の更新を計画的に行い、地域農業の維持発展を図りたい。		取組による効果・残された課題 ・中山間総合整備事業（美の郷地区）については、地元の取りまとめ等が完了したことから、次年度からは、計画に沿って事業を進める。 ・多面的機能支払交付金事業は、引き続き地元説明会等を開催し、新規採択に努める。			

重点目標	武石地域全域公園化構想による地域づくり			部局名	武石地域自治センター	優先順位	4位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第1章 豊かな環境を未来につなぐ 第1節 豊かな環境を未来につなぐ	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	1 訪れたい・住みたいうえだ戦略 地域資源を生かした知名度アップと交流促進	2014市長マニフェスト における位置付け	1 - 2 -		
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(3) 市民満足度を向上させる人・組織の改革 力 地域内分権による地域の自治の推進					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度に自治連と地域協議会の協働で定めた武石地域全域公園化構想に基づき、平成23年度から樹木破碎機の貸出事業、獣害対策、花木苗支給等を自治会を中心に事業を推進しています。 公園化構想を盛り上げるため、地域協議会などによる、新たな公園化構想の取組を模索する必要があります。 「わがまち魅力アップ応援事業」を有効に活用し、住民参加と協働による地域づくりを推進していますが、取組自治会が減少していることから、事業の周知活動と積極的に参加できる仕組みづくりが必要です。 余里花桃の里運営は、武石地域の地区における代表的な取組であり、公園化構想の推進からも運営支援を継続する必要があります。 						
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 公園化構想は、自治会等の活動やその成果の「見える化」を図ることにより、より積極的に地域住民が参加できる活動とするとともに、自らの地域を自らの手で美しくする活動を通して、地域への誇りや地域コミュニティの活性化が図られます。 余里花桃の里運営は、引き続き運営支援することにより、公園化構想の推進が図られます。 						
取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限 (いつ・いつまでに)	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
公園化構想関連事業の推進 (1) 自治会で計画された「わがまち魅力アップ応援事業」等が円滑に実施されるよう申請自治会を支援する。 (2) 自治会への花木苗等支給事業 (3) 荒廃農地の解消、里山整備の支援 ・樹木破碎機貸出事業 ・乗用式草刈機の導入及び貸出		(1) 3月 (2) 6月 (3) 3月	(1) 3自治会等 (2) 2自治会1,000本、花苗ほか (3) ・6自治会延8回 ・6月導入、延べ10回以上貸出	(1) 1自治会、3団体の実施事業を支援 (2) 4月～6月、3自治会に花木苗等を890本支給 (3) ・2自治会へ、延べ2回貸出 ・9月末に導入、貸出準備中		(1) 1自治会、3団体の実施事業を支援 (2) 4月～6月に3自治会へ花木苗等支給(890本) 3月に3箇所へ花木苗配布(610本) (3) ・5自治会等へ延べ6回貸出 利用推進(1月自治会長会で取扱等説明) ・1団体へ1回貸出 野沢菜田2回とフラワーアート田1回 利用推進(1月自治会長会で取扱等説明)	
余里花桃の里運営支援 (1) 仮設トイレ設置 (2) シャトルバス運行支援 (3) オープンガーデン取組支援		(1) 4月18日 ～5月9日 (2) 4月29日 ～5月1日 5月3日～5日 計6日間 (3) 4月23日～5月8日	(1) 一万歩駐車場・上余里 (2) 9時～16時(職員添乗) 一万歩駐車場 上余里 (3) チラシ、案内板作成	(1) 4月18日～5月9日に一般用4台、身体障害者用1台を設置 (2) 4月29日、4月30日、5月1日の3日間運行 (3) 4月23日～5月8日に実施 案内チラシを2,000部作成し配布		(1) 4月18日～5月9日に設置 一般用4台、身体障害者用1台 (2) 4月29日、4月30日、5月1日の3日間運行 (3) 4月23日～5月8日に実施 案内チラシ 2,000部作成・配布	
合併10周年記念事業「武石公園から見る野外アートの制作」 (1) 実行委員会による事業内容の検討及び決定 (2) フラワーアートの制作 (3) ほ場管理 (4) イベント開催		(1) ～9月 (2) 6月 (3) 6～9月 (4) 9月	(1) 委員会は、平成27年度設立 ほ場の整備、花苗の手配委託、情報発信、 (2) 花苗定植、 (3) 耕起、除草、水やり (4) 参加者延べ100人以上	(1) ほ場は整備済、花苗の手配委託済、進捗状況を発信中 (2) 7月25日に小学生による花苗定植実施 7月30日に一般参加者による花苗定植実施 (3) 耕起と水やりは委託、除草は実行委員会と課職員で実施 (4) 9月11日に完成イベントを開催、参加者延べ300人		(1) 3月から定期的に実行委員会と検討委員会実施 (2) 定植は、7月25日に小学生、7月30日に一般参加者が実施 (3) 耕起、水やりは、委託 除草は、実行委員会と職員が実施 (4) 9月11日に完成イベントを開催(参加者延べ300人) 10月6日までフラワーアート管理	
特記事項	市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・合併10周年記念事業では、幅広い団体・住民の参加ができるよう実行委員会主体による事業実施になるよう計画したい。			取組による効果・残された課題 ・公園化構想関連事業は、引き続き継続事業を実施していく。 ・余里花桃の里運営支援は、引き続き地元推進団体との密な連携を図り推進する必要がある。 ・合併10周年記念事業は 地域住民及び農業団体等が一体となり 市民協働により取組むことができた			

